第 17 回(令和 8 年度)助成研究成果表彰　表彰式・受賞記念講演会

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度は 14 名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、6 月 1 日開催の第 71 回通常理事会において、3 名の方の受賞が決定いたしました。

8 月 24 日に鉄鋼会館において表彰式および受賞記念講演会が行われました。当日は吉野理事長の挨拶、酒井技術委員長の審査講評の後、理事長よりステンレス製の表彰状と副賞が授与され、引き続き受賞者による記念講演が行われました。

【各賞の受賞者】

１．理事長賞

賞の性格		環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。	
氏名	村上 太一	所属	東北大学大学院環境科学研究科・教授
助成研究期間	2 年間：　令和 3 年 11 月～令和 5 年 10 月		
研究テーマ	ゼロカーボンを実現する炭素循環製鉄原理の創成		
研究成果	本研究は、鉄鋼業のカーボンニュートラルにおける大きな課題である精錬用の炭素の確保を可能にする新炭素循環製鉄システムを提案し、その主要なプロセスを検証し、原理的には可能であることを示した。 今後、水素還元製鉄法と並ぶ新たな製鉄法として期待される。		

２．技術委員長賞

賞の性格		環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。	
氏名	刘 騰義	所属	東北大学 材料科学高等研究所・特任講師
助成研究期間	1 年間　：令和　6 年 11 月～令和　7 年 10 月		
研究テーマ	金属錯体担持中空銅ナノ粒子触媒による高効率 C2H4 製造技術の開発		
研究成果	本研究は、CO2 から C2H4 への変換過程を「CO2→CO」および「CO→C2H4」のタンデム触媒戦略に着目し、金属フタロシアニン触媒と中空銅ナノ粒子触媒を組み合わせた電極系を構築することにより、高効率な変換挙動を確認した。今後のカーボンニュートラルにおける CO2 資源化に向けた触媒設計に関する新たな視点と指針を示すものと考えられる。		

３．鉄鋼技術賞

賞の性格		鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。	
氏名	金 キョンミン	所属	静岡大学グローバル共創科学部・助教
助成研究期間	2 年間　：令和　4 年 11 月～令和　6 年 10 月		
研究テーマ	鉄鋼スラグの有機炭素固定能力を利用した炭素隔離技術の開発		
研究成果	本研究は、鉄鋼スラグと堆積物微生物燃料電池（SMFC）技術を融合させ、沿岸海域の生態系修復および新たな炭素隔離（ブルーカーボン）技術の開発を通じて、ブルーカーボン創出に資する鉄鋼スラグの新たな利用可能性を示した。		

【 表彰式の様子 】



主催者代表挨拶　吉野理事長



技術委員審査講評　酒井委員長



理事長賞　村上氏



技術委員長賞　刘氏



鉄鋼技術賞　金氏

（記念撮影）



（左から）吉野理事長、刘氏、村上氏、金氏、酒井委員長、一松専務理事

【記念講演会の様子】

（理事長賞）
村上氏



（技術委員長賞）
刘氏



（鉄鋼技術賞）
金氏

